



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

うるわし通信

平成26年7月

桜井を住み良い魅力的なまちにしよう！

桜井を住み良い魅力的なまちにしようと、日頃ご尽力いただき、また本日総会にご出席いただきお礼申し上げます。

総会も5回目、丸4年。会員も法人を含め156名となり活動も活発になっています。これも会員の皆様のご尽力のおかげと感謝いたします。

今、日本の政府も自治体も必死にどうやって生き残っていくか努力しています。

元岩手県知事、元総務大臣で東京大学の増田寛也教授が人口予測を発表して増田ショックが走っています。経済等の未来予測はなかなか当たらないが、人口予測は確実性が高いのです。

25年先には、子育て世代の20代から30代の女性が激減し、全国の市町村の半分が消滅の危機にあるという。あと25年などあっという間にやってきます。桜井も安心できない。こうなれば努力する町としない町では大きな差が出ます。

これまでは市や国が何かしてくれるという、いい時代であったが、これからは自分も何かやらないと道は開けない。一人一人がやることで大きな力になる。うるわしの会もその趣旨でやってきました。

歴史部会、環境部会等も活発に活動しています。プロジェクトも積極的に推進して大和桜井100選にも関わり、穴師の相撲神社の再興にも貢献し観光客も増えています。まちづくり支援の県の動きに呼応して、市民への橋渡しの仕組みを作るエリアマネジメントにも参加し、初瀬や桜井南口の活性化も応援しています。

こういう動きを続けていけば必ず成果につながる筈です。これからは20代や30代の若い人が来る魅力のあるまちにしなければなりません。

皆さん26年度も引き続きよろしく願いいたします。

(会長：堀井 良殷)



うるわしの桜井をつくる会第4回定時総会

6月14日に、「うるわしの桜井をつくる会第4回定時総会」が「あるぼ〜る」で開催され、次の議案について審議され、全て承認可決致しました。

新しく常任理事に、岡本 健様・郡山 尚様・藤井 義晴様が就任されました。

第1号議案	平成25年度事業報告
第2号議案	平成25年度決算報告
第3号議案	平成25年度会計監査報告
第4号議案	平成26年度役員人事(案)
第5号議案	平成26年度事業計画(案)
第6号議案	平成26年度予算(案)

担当部会	平成26年度事業計画
事務局	桜井市市民活動交流拠点の運営
桜井記紀万葉プロジェクト推進協議会	桜井記紀万葉歌碑 原書展 11月26日(水)～30日(日) 大阪あべの ハルカスで開催
福祉部会	桜井市における「都市型コミュニティ」の構築・子育て社会支援システムの構築
教育部会	公共の生涯教育施設である市立図書館の意義と課題について教育委員会社会教育課および桜井市図書館友の会と協働して学習会を開催し理解を深める。
広報部会	うるわし通信を毎月発行 広報紙「うるわしの桜井」発行(市内全戸配布)
景観部会	大和さくらい100選の啓蒙と周辺景観の調査、面としての町創りへの取り組み。 西部中和幹線沿いにドンキホーテ等出店計画がありますが、桜井市と連帯して景観について協議、景観保全に努める。関係団体と交流を深め、魅力ある町創りに取り組む。
歴史部会	「本居宣長『菅笠日記の旅』桜井」の開催
観光部会	桜井記紀万葉歌碑 原書展への協力 万葉講座・万葉歌碑拓本教室・古道ハイキングの実施
文化部会	7月13日(日) 大飯原発勝訴の意義を考える会 11月3日(祝) 「ミンナダオ子ども図書館」の活動報告 日時未定 高齢者社会を考える討論会
産廃部会	(株)中和営繕と最終処分場周辺自治会との間で「環境保全協定及び覚書」が交わされた。 今後は、処分場の安全確保や維持管理の課題や問題について定期的に協議を開く。
ネットワーク部会	市民交流拠点の推進
特別プロジェクト	桜井駅前中心市街地改善・活性化に向けた取り組み

海石榴市（つばいち）の史実・伝承

講演「聖徳太子の心を想う 古代の要・桜井の地と人々」

講師 甲斐 弓子（帝塚山大学考古学研究所 特別研究員）

甲斐先生の講演を拝聴して

藤井義晴（うるわしの桜井をつくる会）

初めて「つば市」が歴史の史実として伝えられるのは、武烈（ぶれつ）天皇期で、次に登場するのは仏教公伝の地として「欽明天皇・戊午期552年に百済の聖明王により伝えられた」と日本書紀に記述があります。しかし、王は同年より前に亡くなっており、前の戊午(538年)と判断されます。後の世に、この仏教公伝が仏法迫害事件を引き起こす事になります。

廃仏派であった物部守屋が「疫病が流布したのは、仏教が原因」と敏達（びだつ）天皇に訴え、天皇は禁仏令を發布し、尼達を「つば市」で鞭打ちの刑に処します。天皇が亡くなりますと穴穂部皇子が敏達天皇の皇后・炊屋姫（しきやひめ）（後の推古天皇）を襲い、一旦は、三輪一族の逆が阻止しますが、「つば市」に逃げ込み殺されました。



仏教伝来之地碑(金屋河川敷公園)

推古天皇期の「つば市」は、交流の拠点として栄えると共に、病気や不幸が悪霊に乗って巷にやって来ると信じられていました。そこで悪霊の大祓いの「茅の輪くぐり」の習慣も、「つば市」で行われていました。推古16年(608年)には、遣隋使・小野妹子が隋の使節団・裴世清（はいせいせい）を伴い、「つば市」に帰って来ます。当時の様子は、日本書紀によりますと額田部比羅夫（ぬかたべのひらぶ）が75頭の飾り馬を諂へ出迎えたとあります。

三輪・初瀬谷・磐余都の交流拠点として、「つば市」が永く栄えたのは三輪山を崇め川が合流する、気の湧きいずる神奈備の地として尊重されたものと思われる。

やがて都は飛鳥に移りますが、依然、後宮として高級官僚の居を構える処である、上宮には聖徳太子が居ました。

やがて海外との交流が盛んになりますと、難波津からやって来る外国の使節団を迎える迎賓館として、大和川の入口に法隆寺を設けます。この拠点は、「つば市」と共に2か所で海外から都への侵入を阻止する役割を果たしていました。

改めて「つば市」を訪れてみますと、絶え間ない初瀬の流れに、時代の栄枯盛衰が蘇る思いに駆られ、聖徳太子がこよなく愛した山地明水に包まれていました。



甲斐講師

事務局だより

- うるわしの桜井をつくる会事務局の電話番号が変更になりました。
新しい番号は 0744-43-7773 (FAX兼用) です。よろしくお願ひします。
- 7月の常任理事会は休会とさせていただきます。

お知らせ

●図書館友の会

7月の読書会は遠藤周作著『深い河』
現代版「イエス」を追求する物語り、日本のカトリック
文学の傑作です。

日 時 7月22日(火)午後1時30分から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点

問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345

友の会会員以外の参加も歓迎します。



●大飯原発再稼働差し止め裁判勝訴の意義を考える報告会

大飯原発第3・4号機の再稼働を止めるために、関西電力に対し福井県の住民たちが中心となって、運転差し止めを求めていた裁判で、5月21日、福井地裁は「生存に関わる人格権」を優先して、運転差し止めを命じる画期的な判決を言い渡しました。

この度、「福井から原発を止める会」事務局長の松田正さんをお招きして、原発差し止めに取り組んで来られたお話を聞き、原発の問題を考えてみたいと思います。

日 時 7月13日(日)午後2時から

場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点

参加費 ¥300(資料代)

主 催 脱原発桜井の会

協 力 うるわしの桜井をつくる会文化部会

問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345

●うるわし通信の人事異動について

編集長：東 俊克となります。前編集長：浅川 肇は、今後は総編集長兼発行人。たまに執筆することもあります。尚、編集後記は、しばらく浅川が続行します。

編集後記 総会の質問で「文化部では平和と戦争について議論してほしい」という趣旨の発言がありました。と角、無難に終り勝ちな総会での重い発言でした。わたしたちが成り立たせている市民社会の倫理道徳では、殺すな！傷つけるな！は基本中の基本です。鍛えられたこの基本を良心といいかえるならば、そう簡単に打ち砕かれる良心であって良いのでしょうか。まず、自己の良心を確認してみたい。暑い夏のはじまりです。
(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345